

編集後記

編集委員の2年の任期が終わりまして、事務局の方々の支援、編集委員の先生方のご協力のおかげで、何とか2年間過ごせました。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

今回、企画幹事を仰せつかったこともあり、これまであまり縁の無かった分野も含め企画提案書から目を通すこととなりました。いろんな分野の最先端の基礎研究、開発の動向が書かれていて勉強になったのはもちろんですが、研究内容をわかりやすく伝えようという編集委員と著者の先生方の熱意と工夫と苦勞(!)が読み取れ、諸先生方には毎回敬意を表さざるを得ず、また、毎月送られてくる学会誌も丁寧に読ませていただかないといけないという思いを強くしました。

よく過去を振り返ると、あつという間だったと思うことが多いのですが、編集委員の任期の2年間を含め、この数年間を振り返ると、とても長かったような気がします(一方、あらゆる締め切りだけはものすごく速くやって来、過ぎ去っていくのですが)。某TV番組の“永遠の5歳児”と呼ばれる才女によると、時間を短く感じるのは、人生に“ときめき”がなくなる、つまり心が動かなくなるからだそうですが、この数年間は、異動やコロナ禍に伴う環境の激変、核融合研究分野の動向、編集委員活動、個人的なこと(子猫の保護をきっかけとした犬派から犬・猫派への転向)等々、公私にわたり様々な想定外のことが起こりすぎて、心が正負に激しく揺れ動いていましたので、この数年間を長く感じているということは、ときめき説はあながち間違っていないということなのかもしれません。

ようやくコロナ禍も収束し、コロナ禍前の日常が戻りつつあります。外的要因による心のときめき(不安定性)はもう十分なので、次は平穏な日常の中で、研究の中での心のときめき(できれば指数関数的な高揚)で有意義な時間を長く過ごしたいものです。(井戸 毅)

ChatGPTなどの生成AIが話題となり、しばらく経ちました。学生からは、講義のレポートを書かせたり、就職活動のエントリーシートを書かせたりしている、という声が多く聞かれてきており、恐らく全国の多くの大学生が利用するツールとなっているのではないかと思います。私自身も何度か使用してみたことはありますが、ふわっとした当たり障りのない回答が多く、なかなか思うような文章を引き出せないという印象で、文章を書く前提条件や、教えてほしい事柄をAIに正しく伝えるのに試行錯誤が必要です。また、根拠となる参考文献を挙げさせると高確率で存在しない本や論文を伝えてくるため、内容の正確性には不安が残ります。学生曰く「ChatGPTを“調教”する前に自分で書いた方が早いこともある」そうです。結局のところ、ありきたりな文を書くのには適していますが、特殊な事例や専門的な話をさせるのはまだまだ難しく、使いこなすためには一定の国語力と、回答の正誤を判断できるだけの知識が要求されている気がします。

さて、2021年7月から2年間にわたってAPP編集委員と発行幹事を務めさせていただきましました。委員の皆様、事務局の皆様には大変お世話になりました。実のところ、2年目任期中に都合により半年ほどお仕事とともに学会活動もお休みさせていただきまして、関係する皆様には多大なるサポートをいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。編集委員会は今年度から事務局で対面開催されるようになりましたが、名古屋大学からは地下鉄で20分程度の距離でありながら、結局のところ現地へ行く機会を持てませんでした。いろいろと心残りがあり、また機会がありましたら学会活動に携われたらと思います。(鈴木陽香)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長	安藤 晃	
副 会 長	上田良夫	花田磨砂也(男女共同参画委員長)
常務理事	市口勝治(総務委員長)	
理 事	渥美寿雄(企画展示検討委員長)	出射 浩(編集委員長、支部・地区研究連絡会委員長)
	井 通暁(財務委員長)	大原 渡(企画委員長) 金子俊郎(年会運営委員長)
	村上 泉(推薦委員長:研究助成)	横峯健彦(推薦委員長:学会賞)
	居田克巳(研究部会委員長)	兒玉了祐(広報委員長) 白藤 立
	仙波智行 田中康規	林 伸彦 藤田隆明
監 事	前田達志 立松芳典	

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 井 通暁(東大) 応 用 白藤 立(大阪公立大) 核融合プラズマ 林 伸彦(量研) 核融合炉工学 上田良夫(阪大)

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 出射 浩(九大) 副委員長: 村上 泉(核融合研)
エディタ: 稲垣 滋(京大), 古閑一憲(九大), 重森啓介(阪大), 高橋裕己(核融合研), 石澤明宏(京大), 大矢恭久(静岡大)
編集委員: 伊神弘志(核融合研), 池田善久(愛媛大), 市原大輔(名大), 宇藤裕康(量研), 岡本征晃(石川高専), 大宅 諒(九大), 恩地拓己(九大), 勝川行雄(国立天文台), 川手朋子(核融合研), 川面洋平(東北大), 小島完興(量研), 小林達哉(核融合研), 佐々木渉太(東北大), 佐野孝好(阪大レーザー研), 神藤勝啓(原子力機構), 關 良輔(核融合研), 高橋宏幸(東北大), 竹崎太智(富山大), 田中 学(九大), 富田健太郎(北海道大), 中村 誠(Helical Fusion), 中野治久(核融合研), 針谷 達(豊橋技科大), 皇甫度均(筑波大), 福本正勝(量研), 古川武留(神戸大), 森田大樹(宇都宮大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第99巻第8号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2023年(令和5年)8月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <https://www.jspf.or.jp/> 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。